

仮称琵琶湖流域水ビジョン策定のねらい

1 琵琶湖とそれを取り巻く諸情勢の変化

(1) 琵琶湖環境のかつてない変化

水草の繁茂、外来魚の増殖、湖底の泥質化、湖底深層部での低酸素化、CODの漸増等

(2) 危機的な富栄養化を乗り越えた後の、琵琶湖水環境改善の目標が不透明

その結果、県民の取り組みや、施策目標が曖昧

(3) 学術研究機関の充実により蓄積される調査研究成果のさらなる活用が必要

(4) マザーレイク21計画をはじめとするこれまでの対策・施策の検証が必要

2 なぜ今ビジョンなのか

現在、何がどう琵琶湖に悪影響を与えているのか明確には分かっていない現状であるが、たとえば水質の改善が見られていないといったことから、何かが琵琶湖で起こっていることは確かである。

今、この対策に取り組まなければ大変ことになるかもしれないという状況であり、有効な取り組みの方向を示すビジョンが必要である。

3 水ビジョン策定の目的・趣旨

(1) 琵琶湖の水環境問題に対応する政策シナリオを描く。

ここでは、県民の琵琶湖保全への参画を図る道筋を示すとともに、学術研究機関との連携や成果の活用を図る等、県民の総力を挙げるものとする。

(2) 県民の琵琶湖への関心を高め、将来像をともに語り合い、それぞれの役割を見出すツールの一つとして、2030年の琵琶湖の姿を提示する。

(3) 水ビジョンでは、琵琶湖を中心とする水環境の将来を示すとともに、施策の方向性を示す。

4 水ビジョン策定にあたっての検討テーマ

- (1) 琵琶湖の現状と課題の把握、分析
- (2) これまでの対策・施策の評価・検証
- (3) 県民世論の把握と分析
- (4) 学術研究機関の取り組み把握と県への提案・期待の把握
- (5) 今後の政策シナリオの提示
- (6) 県民参加で琵琶湖の有り様を議論するツールとしての琵琶湖の将来像

5 水ビジョンの構成

- (1) 現状と課題
- (2) 政策シナリオ
 - 生態系の保全・回復への取り組み策が必要
 - 水質保全策の再構築が必要
 - 琵琶湖の水質・生態系メカニズムを解明する総合的な調査研究が必要
 - 対策・施策の評価の指標が必要
 - 県民の知恵と力を結集する取り組みの仕組みが必要
 - 学術研究機関との連携の仕組みが必要
 - 取り組み方針の提案（マザーレイク21計画の推進と第2期計画に向けての準備シナリオ）
- (3) 琵琶湖の将来像（多面的な価値の発揮）
 - 水質
 - 生態系
 - 文化・暮らし・・・

6 水ビジョン策定の進め方

環境審議会で策定作業を進める

- | | | |
|-------|-----|------------------------|
| 6月1日 | 諮問 | 環境企画・水環境合同部会と策定小委員会の設置 |
| | | 第1回 環境企画・水環境合同部会 |
| 7月3日 | 第1回 | 仮称琵琶湖流域水ビジョン策定小委員会 |
| 8月22日 | 第2回 | 仮称琵琶湖流域水ビジョン策定小委員会 |
| 9月14日 | 第2回 | 環境企画・水環境合同部会 |
- （合同部会は1回、策定小委員会は3回それぞれ年度内に開催予定）
- 年度内 答申予定